

教育先進都市 神戸を目指して

教育界の現状の課題と解決に向けて:Part3

2022年10月31日

株式会社T.I.E

株式会社首都圏中学模試センター

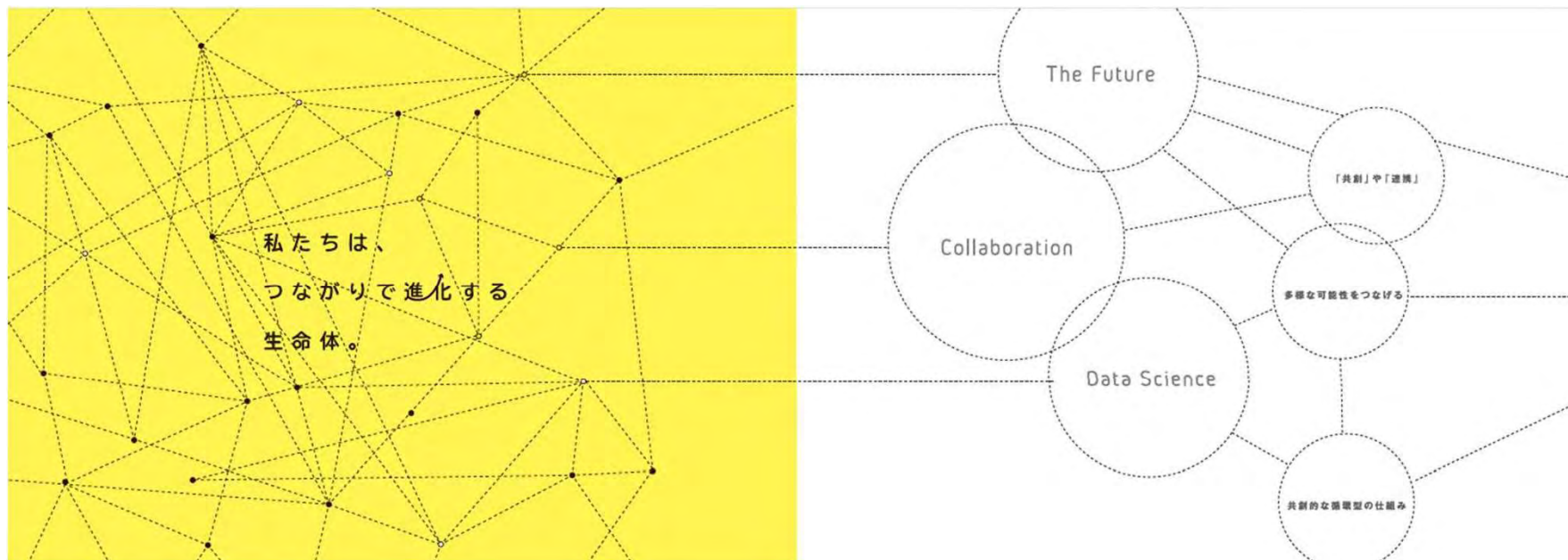
首都圏模試センターの強みは！？

- ☆ ネットワーク力
- ☆ 情報収集力
- ☆ 情報発信力
- ☆ 思考コード(新しい評価軸)

首都圏模試センターは、首都圏を中心とした中学受験のための模擬試験実施していますが、特定の塾によらない中立的な組織を目指して様々な塾が株主になって設立されました。

現在は、模擬試験だけではなく、先進的な学校の取り組みや授業を取材・研究し、学校へのコンサルティングやセミナーも行っています。2020年度の大学入試改革に伴い、小中高の教育内容が大きく変化する中、思考コードという偏差値に代わる新しい評価軸を開発、大学入試改革で求められる力やこれからの社会で求められる力を評価できるようになりました。

一人ひとりの子どもの可能性を信じ、先進的な教育を応援する活動を積極的に行っています。



報告の内容

1. 調査の目的

2. 神戸市の教育課題と中高一貫校設立に向けての課題
3. 神戸市の教育課題を解決するために必要なこと
4. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？
5. 公立中高一貫校の具体的なコンセプト案
6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと
7. 開校に向けてのロードマップと設置準備計画

(調査目的)

◇ 前回の調査で多くの自治体が先進的な学校の設立／教師人材の育成を行っている事例、新たな評価軸に沿った公立校の事例を中心に発表をした。

◇ 本調査の趣旨／その意義は、神戸の都市としての魅力を高めるためである。

Part1では日本全体の動き／教育行政の変革について調査・報告を実施。

Part2では、これまでの自治体の取り組みを参考に「中高一貫校の設立」「ICT教育」「課題解決型／探究型授業」という方向性を示し、その中で求められる教員の力、採用試験の在り方、人材の養成・・・など数々の取り組むべき課題について提起をさせていただいた。

今般のPart3では、神戸2025ビジョンに基づき、教育先進都市神戸にふさわしい教育についてより深掘りを行い、各自治体の先進事例である中高一貫校をモデルとして神戸市が抱える特殊事情、それを踏まえた課題解決の方向性に関して提起をしていく。

とともに、先進的な教育制度を導入する上で合意形成をいかに行ったかを取材し、今後の参考とする。

1. 調査の目的

2. 神戸市の教育課題と中高一貫校設立に向けての課題

3. 神戸市の教育課題を解決するために必要なこと

4. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？

5. 公立中高一貫校の具体的なコンセプト案

6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと

7. 開校に向けてのロードマップと設置準備計画

1. 神戸市の教育課題と中高一貫校設立に向けての課題

かつて全国でもトップレベルの学力を誇っていた神戸市がなぜ平均レベルになったのか？

→小林一三氏による鉄道を中心とした都市開発時に、
教育も大きく発展し、日本でも有数の教育先進都市に！
公立の小学校で私立中学の受験対策も行われていた。

鉄道を中心とした都市開発(不動産事業)、流通事業(百貨店、スーパーなど)、観光事業などを一体的に進め相乗効果を上げる私鉄経営モデルの原型を独自に作り上げ、後に全国の手私鉄や民営化したJRがこの小林一三モデルを採用し、日本の鉄道会社の経営手法に大きな影響を与えた。これらの事業は後に阪急百貨店、宝塚歌劇団・東宝として阪急東宝グループを形成する。その過程で六甲山麓の高級住宅地の開発、学校法人関西学院等の高等教育機関の誘致や温泉、遊園地、野球場など娯楽施設の整備を行い、日本最初の田園都市構想を実現した。(ウィキベテアより)

1. 神戸市の教育課題と中高一貫校設立に向けての課題

神戸市で公立中高一貫校を設立するための課題とは？

今回の公立中高一貫校の設立により、神戸市民に夢と希望と未来を与える。

- 先進的なモデル校として神戸市の教育課題をすべて解決した学校に。
- 神戸市の小中高大と連携し、神戸市全体の教育レベルを上げるHUB校に。
- 「海と山が育むグローバル貢献都市」にふさわしいグローバルに貢献する人材を輩出する学校に。

1. 神戸市の教育課題と中高一貫校設立に向けての課題

相次ぐ不祥事は
なぜ起こるのか？

教員間ハラスメント事案に係る
再発防止検討委員会 報告書

令和3年1月

神戸市教育委員会

教員間ハラスメント事案に係る再発防止検討委員会

教員間ハラスメント事案に係る再発防止検討委員会 報告書

第1章 本事案に関する心理学的背景

(1) 加害教員らがハラスメントを継続できる心理的要因

選択的道德不活性化理論(Bandura)によると、人は本来自分の中に道德規範を持っており、その規範に基づいて反道徳的な行為を抑制している。しかし、次に挙げるような要因によって、自己調整過程(道德規範との調整)が不活性化すると、善悪の判断が難しくなり、良心や罪悪感、恥といった機能も抑制されるため、反道徳的な行動がしやすくなる。

自己調整過程を不活性化させる要因には、反道徳的行為を社会的に認められるものであるとみなす「道徳的正当化」、別の表現でごまかす「婉曲なラベル」、自分に「都合の良い比較」、他人や社会に責任を押し付ける「責任の転嫁・拡散」、「結果の無視や矮小化」、責任を被害者や環境のせいにする「非難の帰属」、被害者の「非人間化」などがある。調査報告書に記載されていた本事案の加害教員らの発言からも、これらの影響が伺われ、**様々な理由をつけて道德規範が不活性化**する中で、加害行為が継続されたものと考えられる。また、こうした歪んだ認知が社会的強者によって職員室に蔓延、定着すると、内部の人間がハラスメントを制止することも難しくなると考えられる。

教員間ハラスメント事案に係る再発防止検討委員会 報告書

第1章 本事案に関する心理学的背景

(2) 周囲の教員がハラスメントを制止せず、環境として受け入れる心理的要因

加害者・被害者以外の周囲の教員が本事案のハラスメントに「気づけなかった」ないしは「見ても否認した」、「見て見ぬ振りをした」ことの心理的要因として、以下のようなことが考えられる。

一般的に、学校の職員室の人間関係は閉鎖的であり、教員間で暗黙のルールや空気感といった集団規範が一度形成されると、変化しにくい。そして、それがハラスメントの容認といった道徳的に間違っただけの集団規範であっても、集団規範に反する行動をとろうとする人は、集団の中で「空気が読めない人」や「やっかいな人」として扱われるなど、他の教員からの圧力がかかり、被害者の擁護や加害者の制止といった(集団規範に反する)行動ができなくなる。メンバーが固定化するような閉鎖的な空間において、独特な雰囲気や文化が生まれやすいのは、そこに集団規範が形成され、固定化し、長期間保持され、それが当たり前になるからである。集団に新しく人が入ってきても、多数派を占める者や立場の高い者など、社会的に強い構成員が共有する規範は、受け入れるしにくいことになりやすい。

また、学校、病院、福祉施設等の職場では、子どものため、患者のため、利用者のためという理由で自らの環境改善を後回しにし、職場環境が悪いことを受け入れてしまいやすい傾向があるので注意が必要である。

このような状況のもとで、内部の人間が問題を発見し、制止したり、外部に報告したりするためには、よほどの強い意志が必要になる。そのため、周囲の教員は「力の強い中堅教員が若手教員にハラスメント行為をしている。ハラスメント行為は許せないが、力の強い中堅教員には逆らえない。注意できない。」という状況に陥る。これは、バランス理論(Heider)でいう「不均衡」の状態であり、これに適応するため、「若手教員も楽しんでる。ただのふざけあいだ。」、「仕事ができない若手教員に対する指導だ。」といったように、ハラスメントの存在を否定する方向に認識を変えてしまう者が出てくると考えられる。

教員間ハラスメント事案に係る再発防止検討委員会 報告書

第1章 本事案に関する心理学的背景

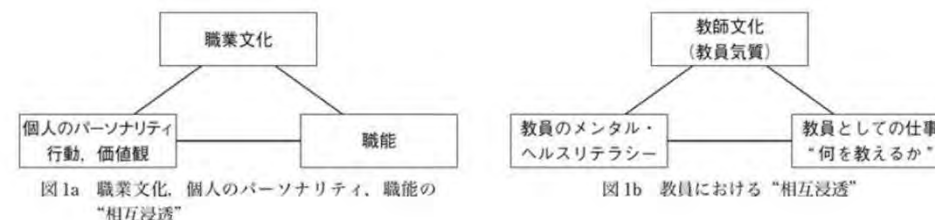
(3) 職務に由来する教員の心性

以上のような状況を招いた背景として、**教職特有の文化や心性**についても指摘したい。どのような職業にもその職種に固有な職業文化がある。職業文化は、その職種の職務(職能)と密接に関係し、その構成員個人のパーソナリティや行動様式や価値観などにも影響を与えると考えられる。これら三者は、相互に影響しあって、一つの複合体のようなものを形成し、三者間には「**相互浸透**」とでもいうべき現象があると考えられる(図 1a)。

学校、学校教員にも、職務に基づいて形成される独特の文化や気質があり、「**教師文化**」や「**教員気質**」等と呼ばれてきた。それらの中には、人格の陶冶たる教育を行う者にとって有用であると思われるものもある一方で、学校教育界の外にある者からすると、ローカルな文化的「歪み(ひずみ)」にみえるものもある。

例えば、教師文化や教員気質の一つとして、「現実や人の欲求よりも理想を重視する」傾向がある。これは、「禍々しい現実よりも理想に目を向ける」、「禍々しい現実から目を背ける」、「禍々しい現実に接すると耳目が汚れると感じる」といった心性へとつながる。(なお、この関係性については、日本古来の「清らー穢れ」という対立軸や文化人類学で言う感染呪術、儒教文化の影響もあと考えられる。

このことは、今日の学校教育現場における自殺予防教育への忌避感や児童生徒の自傷行為を無視する態度、さらには、性教育、特に避妊教育への否定的な姿勢などとして表れることになる。こういった傾向は、他の専門職(法曹、医療者等)に比して学校教員において顕著であり、ハラスメントに遭遇しても目を背けてしまうことにつながったのではないかと考えられる。



教員間ハラスメント事案に係る再発防止検討委員会 報告書 第1章 本事案に関する心理学的背景

(4) 公正世界信念という落とし穴

教職に限らず、多くの人は、「善行(をなす人)は報われ、悪行(をなす人)は罰を受ける。」という公正世界信念を持っている。これ自体は、健康的で自然な感覚であるが、災害や犯罪といった理不尽な出来事が起こると、逆向き推論という誤謬が働き、「被害を受けた人は何か落ち度があったに違いない。」、「いじめられるのは何か問題があったからだ。」というような、自己非難を含め、被害者に対するバッシングになってしまう傾向がある。あわせて、加害者の切り離しが行われ、加害者が非人間化・悪魔化される傾向もある。

このように、人は「被害者にも落ち度がある。」、「加害者は特殊な人間である(ので、自分とは関係がない)。」という考えに陥りがちであり、この認識は、周囲の教員が校内の同僚によるハラスメントに目を背け、さらにそのことを自己正当化するように働いたと考えられる。

1. 調査の目的
2. 神戸市の教育課題と中高一貫校設立に向けての課題
3. 神戸市の教育課題を解決するために必要なこと
4. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？
5. 公立中高一貫校の具体的なコンセプト案
6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと
7. 開校に向けてのロードマップと設置準備計画

神戸市教育委員会改革方針 2021

1. 学校園への支援の充実及びガバナンスの強化

事務局内の**指揮命令系統の明確化**や**縦割り意識の解消**、所属間の**連携強化**等、事務局の**組織体制の強化**を図ります。

また、事務局と学校園の**情報共有と連携**を
. 深め、学校園への**支援の充実**に努めるとともに、
教育委員会の**ガバナンスの強化**を図ります。

2. コンプライアンスの徹底及び開かれた学校づくりの推進

子どもたちの**健やかな成長**を第一に、
コンプライアンスに基づく**教育活動**や**事務執行の徹底**を図ります。
また、**コミュニティ・スクール**(学校運営協議会の取組)を推進して、
保護者や地域住民の**学校教育活動への参画・協働**を促進し、
地域とともにある**開かれた学校づくり**を進めます。

3. 学校園の組織力の強化及び教職員の資質向上

各学校園において、校長がリーダーシップを発揮し、教職員が風通しの良い職場で、いきいきと教育活動に取り組めるよう、教職員の人事制度や研修制度の充実、外部専門家のさらなる活用、働き方改革の推進を行うなど、学校園の組織力の強化や教職員の資質向上に取り組みます。

4. ハラスメント防止対策の強化

教職員に対してキャリア段階に応じたハラスメント研修を実施し、ハラスメントに対する意識を高め、ハラスメントを発生させない、許さない、見過ごさない組織文化の醸成を図ります。また、教員間のハラスメントは今後も起こりうるという前提に立ち、早期発見・早期対応につなげるシステムを構築します。

5. いじめ防止対策等の推進

「神戸市いじめ防止等のための基本的な方針」や「神戸市いじめ対応のための実施プログラム」に基づき、いじめ防止対策等を推進し、いじめ等の未然防止や早期発見・早期対応を図ります。

教員間ハラスメント事案に係る再発防止検討委員会 報告書

(2) 風通しのよい職場づくり

①望まれる教師像の再構築

今後、学校内でハラスメントが起こらない職場づくりを行うためには、望まれる教師像の再構築も必要である。「荒れた学校」で毅然と対処できるような生徒指導力も大事であるが、同様に対話力が重要であり、これには教員が指導上の困難に直面したときなどに、一人で抱え込まずに相談できることも含まれる。自己犠牲を伴う対人援助職である教員の活動は心身のストレスを伴いやすく、持続的・安定的に能力を発揮するためにも、教員は自分を守ることが重要である。

問題を一人で抱え込まざるを得ない環境では、その問題を抱えきれなくなった時点で、重大事案に至るリスクが高まっていることになる。若手、特に初任者には、我慢せずに周りに相談することや頼ってもよいということを経験させるなど、教員一人一人が援助希求方法を身につけ、困ったときにはSOSを出せるようにするとともに、管理職や中堅以上の教員には、若手がSOSを出しやすい雰囲気をつくり、SOSを引き出し、そうした相談や悩みを受け止める能力を身に着けることが、問題を伏在化、隠蔽化させないために必要である。弱音をはくことや自分を大切にすることに寛容で互助的な文化や職場風土を醸成していくことが求められる。

これらの実現に向けては、まず、先の(1)で挙げた研修等を通じて個々の教員の意識改革を図るとともに、管理職のリーダーシップを向上させ、学校組織の改善を図ることが求められる。また、学校運営を工夫することで職場風土の改善を図ることも有効と考えられる。例えば、小学校においては、長く学級担任制がとられてきたが、令和4年度を目途に高学年から教科担任制が導入される予定である。これを機に学年単位での風通しを良くして、教員間の連携や組織的な対応を浸透させることが考えられる。また、学級ごとの固定担任制を廃止し、学年内での全員担任制を導入するような取組もみられる。このような先進的な取組を参考に、各学校で工夫を進め、教職員一人一人がチームの一員として活躍できる職場づくりに努める必要がある。

教員間ハラスメント事案に係る再発防止検討委員会 報告書

(2) 風通しのよい職場づくり

②ダイバーシティを認める職場づくり

現在、学校が抱える課題が複雑化・困難化する中で、様々な専門職や外部人材を活用する「チームとしての学校」を推進する方向にある。また、教員の年齢構成も20代・30代の急増で変化しており、世代間の価値観や意識のギャップも生じている。このように、従来に比べて、学校には教員に限らず、多様な能力や価値観をもった幅広い年代の人が多様な雇用形態のもとで関与しており、教職員が互いの価値観・職業観等の相違を知り、認め合い、協働することの重要性が高まっている。

学校においては、校内研修や各種委員会等の機会を通じて、学校の状況や課題について話し合う場を設定するなど、管理職やベテランから若手に至るまでの教員や他の専門職員等で意見交換や情報共有を図り、異なる個性や経験を持った者が互いの理解を深め、悩みや困難を抱えたときに相談や援助ができるような互助的な人間関係を築いておくことが重要である。また、外部人材に対して、教育活動に対する理解促進やコンプライアンス等に関する研修機会を設けることも求められる。

教員間ハラスメント事案に係る再発防止検討委員会 報告書

(2) 風通しのよい職場づくり

③開かれた学校づくり

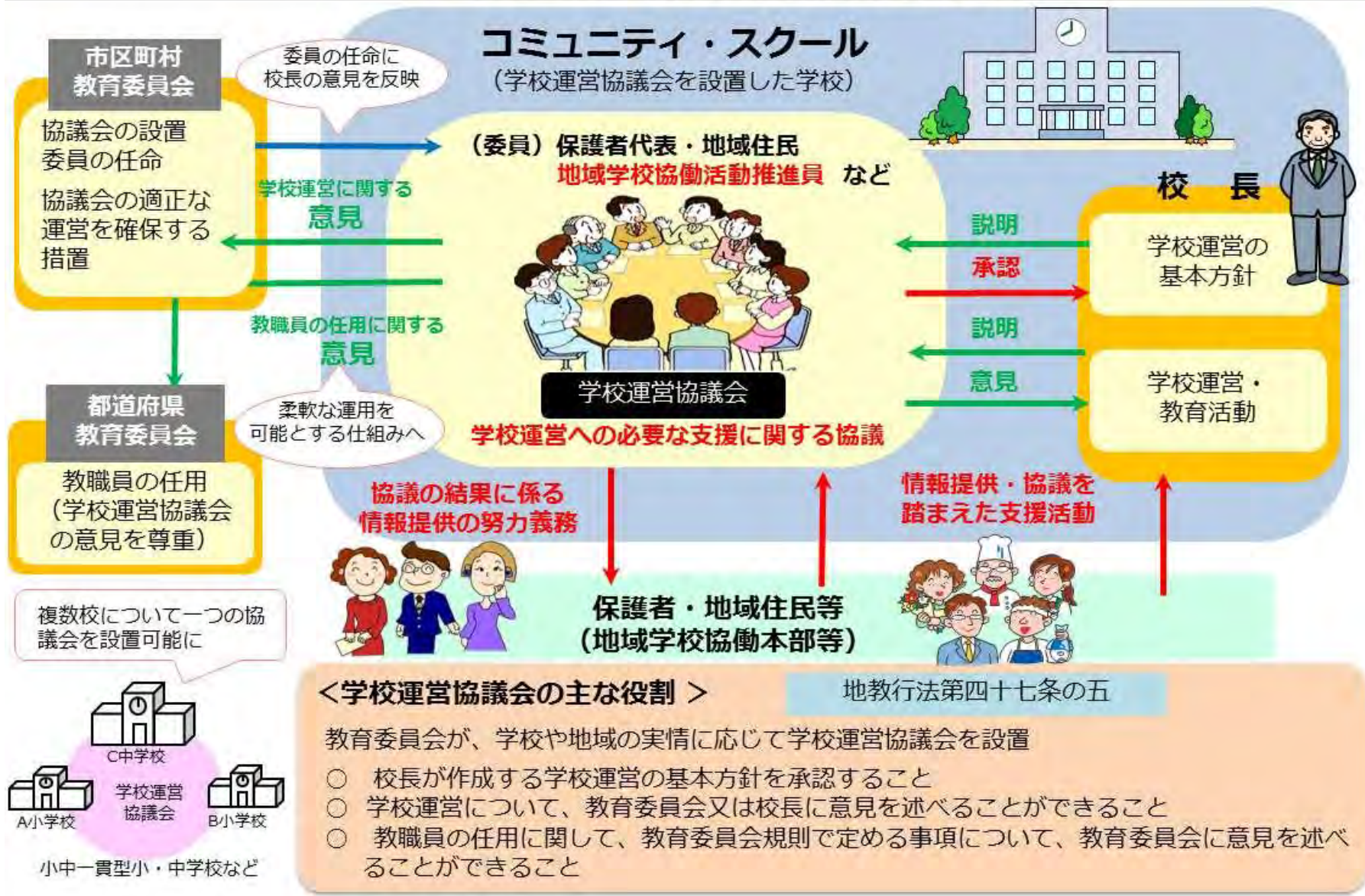
神戸市の学校では、これまでも地域とのつながりを大事にしてきたが、今後はさらに開かれた学校づくりを進め、地域住民・保護者等への説明を念頭に置いた教育活動を行うことが求められる。これにより、閉鎖的な学校の職場風土が改善され、学校外部からの関心が意識できるようになることが期待される。

具体的には、市教委において導入を推進しているコミュニティ・スクール(学校運営協議会)の制度を積極的に活用し、教育活動や学校経営への地域住民や保護者等の参加を促進することが必要である。学校活動を支援する様々な外部人材をさらに受け入れるなど、協働を通じて地域社会との関係を深めることが望ましい。

④教育実践研修による横のつながり

市教委では、教員がこれまで自主的な活動として実施してきた教育研究会の活動のうち、授業力・指導力の向上に必要な研修を公務に位置づけ、令和2年度から「教育実践研修」として実施している。教員全員が参加することになっており、今後はこの教育実践研修を通じて、教員が自分の学校だけではなく、他校の教員と交流することで、視野を広げることや新たな人間関係の構築につながるような運用の工夫を期待したい。

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



神戸市への提案 → ウェルビーイング教育

ウェルビーイングとは、

「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」をいいます。

※世界保健機関憲章全文(日本WHO協会役)

このウェルビーイングを実現するために、自ら行動できる意思を持った人を育成することが世界の教育も区報いなっています。

1. 調査の目的
2. 神戸市の教育課題と中高一貫校設立に向けての課題
3. 神戸市の教育課題を解決するために必要なこと
4. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？
5. 公立中高一貫校の具体的なコンセプト案
6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと
7. 開校に向けてのロードマップと設置準備計画

4.教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？

「海と山が育むグローバル貢献都市」

基本的な考え方

- 豊かな自然と文化、多様な価値観が融合する神戸の強みを磨き、活かした新たな価値・スタイルを創造する
- 人口減少時代に向き合い、神戸のまあらゆる関係者が幸福を実感するまち・くらしの質を高め、成熟都市の魅力を訴求し、好循環へ転換する
- 神戸に住み、働き、学び、楽しみ、を実現する
- **ダイバーシティ**
 - ※推進やジェンダー※平等の視点を確保し、女性が活躍できる環境を整え、外国人市民をはじめとした多様な市民の参画による**多文化共生社会**を実現する
 - **震災から再起した市民の知恵・気風**を活かし、あらゆる危機への備え、誰一人として取り残さず、**人を大切にする安心・安全なまち**を実現する
 - テクノロジーの実装・デジタル化の加速による市民生活の豊かさと利便性向上、経済活動の回復・成長、環境貢献など、**SDGs の達成による持続可能な都市**を実現する
 - ※ ダイバーシティ…性別、人種、宗教、思想などあらゆる違い(多様性)を尊重し活かしていくこと
 - ※ ジェンダー…社会的・文化的に形成された性別のこと

4.教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？

「海と山が育むグローバル貢献都市」

国際性 & 多様性 & 多言語 → グローバル教育

芸術文化 & 豊かな自然環境 → STEAM教育

震災から再起した市民の知恵・気風 → 探究・PBL(課題解決)

一人一人が安心安全で
心豊かに幸せを実感できる → ウェルビーイング教育



「明日につなげる 新・こうべ教育プラン」の概要

「一人一人の子供たちの輝く明日につなげる」とともに「神戸の豊かな明日につなげる」ため、「人は 人によって 人になる」の教育理念の下、神戸の教育を推進

計画策定の視点

- 1 少子高齢化、技術革新・グローバル化の進展など時代の流れを見据える
- 2 学習指導要領等の改訂など国の動きに対応
- 3 第2期神戸市教育振興基本計画における取組実績を継承・改善・発展
- 4 神戸市教育委員会の組織風土改革に向けた取組を推進

令和2年度 計画の内容

基本政策1

心豊かに たくましく生きる 神戸の子供を育む

- 1 確かな学力の育成
・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進、個に応じた指導の充実
- 2 豊かな心の育成
・自他の命を大切にする教育の推進
- 3 健やかな体の育成
・児童生徒の体力向上
- 4 一人一人に応じたきめ細かな教育・支援の充実
・教育と福祉の連携による幼児・児童生徒への支援の充実
- 5 人格形成の基礎となる幼児教育の質の向上
・幼稚園教育要領に基づく教育の充実並びに公私幼保の教育の質の向上に寄与する研究・発信
- 6 特色ある高校教育・高専教育の推進
・全日制高校における魅力・特色づくりの推進、役割の多様化に応じた定時制教育の充実、時代の変化に対応した高専の教育内容の充実
- 7 神戸の国際教育・防災教育のさらなる推進
・国際都市神戸としての英語教育の推進、生きる力を育む神戸の防災教育の推進

毎年、点検・評価を行い、進捗を管理して取組を推進

□：神戸市教育大綱の実現に向け、中心に取り組む項目

基本政策2

安全・安心で楽しい学校を築き、地域と共に子供を支える

- 8 いじめを許さず生き生きと過ごせる学校生活の実現
・いじめ対応に関する知識・技能の向上とチーム対応の推進、専門スタッフの体制強化と重大事態等への適切な対応の推進
- 9 教職員の資質・能力の向上と学校の組織力の強化
・学校の組織力強化や学校への指導・支援の充実、高い倫理観と規範意識のある教員の育成、コンプライアンス意識が醸成された職場環境の構築
- 10 教育の質を高める教職員の働き方改革の推進
・学校業務の適正化の推進、教職員の事務負担等の軽減
- 11 安全・安心で質の高い学校教育環境の整備
・学級増対策の推進、学校施設の機能向上、学校施設の異常高温対策、感染症対策の推進
- 12 ICTの基盤整備と利活用の促進
・GIGAスクール構想の実現に向けた学校のICT学習環境整備の推進
- 13 地域と学校との協働による社会に開かれた教育の実現
・地域に開かれ、地域とともにある学校づくりの推進、学校を支援する人材の育成・教員志望者の育成
- 14 地域に活かし・つなげる社会教育の充実
・生涯の「学ぶ」機会の充実、地域に還元する「活かす」学習活動の支援

令和5年度 指標例（4年後の姿）

「授業が分かる！」
児童生徒の割合
(小)全教科90%以上
(中)全教科80%以上

「ICTで学習！」
全小・中学生
特別支援学校小・中学部生
PC(タブレット)
配備率100%

「部活が楽しい！」
中学校部活動の活動内容
満足度80%以上

「校舎の機能アップ！」
トイレの洋式化
整備完了

「先生も生き生きと！」
超過勤務時間
各年度前年度比10%減

目指す人間像「心豊かに たくましく生きる人間」

- ①知・徳・体にわたる生きる力を身に付け、自ら学び、考え、行動する
- ②互いの人権を尊重し、多様な人々と共に生きる
- ③よりよい社会を築く一員となるための資質と自覚を高める
- ④夢や志をもち、自ら目標を定め挑戦する
- ⑤豊かな国際性を身に付け、地域や国際社会の持続的な発展に貢献する

1. 調査の目的
2. 神戸市の教育課題と中高一貫校設立に向けての課題
3. 神戸市の教育課題を解決するために必要なこと
4. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？
5. 公立中高一貫校の具体的なコンセプト案
6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと
7. 開校に向けてのロードマップと設置準備計画

5.公立中高一貫校の具体的なコンセプト案

神戸市で公立中高一貫校を設立するための課題とは？

今回の公立中高一貫校の設立により、神戸市民に夢と希望と未来を与える。

- 先進的なモデル校として神戸市の教育課題をすべて解決した学校に。
- 神戸市の小中高大と連携し、神戸市全体の教育レベルを上げるHUB校に。
- 「海と山が育むグローバル貢献都市」にふさわしいグローバルに貢献する人材を輩出する学校に。



福島県立

ふたば未来学園中学校・高等学校

双葉地区教育長会が主催する「福島県双葉郡教育復興に関する協議会」(平成24年12月設置)において、平成25年7月末に、県立中高一貫校の設置を柱とする「福島 県双葉郡教育復興ビジョン」を決定・公表。双葉地区教育長会では、ビジョンの検討と同時並行で、「**双葉郡子供未来会議**」を実施。

子供たちの考える双葉郡の教育として

『動く授業』『世界とつながる』

『夢を見つけるたくさんの「小さな窓」』等のキーワードが生まれた。

県と双葉郡地方町村会の協議の結果、中高一貫校については平成27年4月開校とされ、設置場所については広野町とすることが決定された。
(中高一貫教育は、連携型で開始)

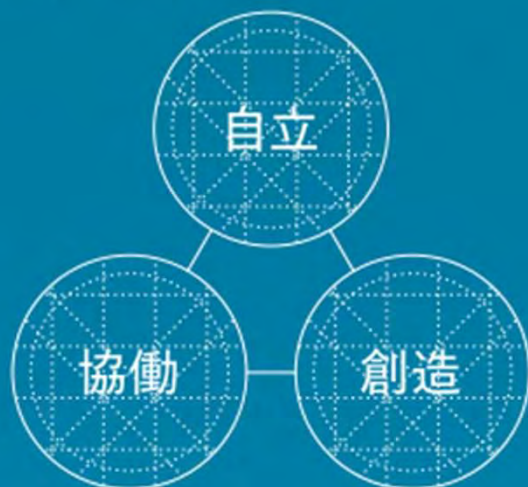


福島県立

ふたば未来学園中学校・高等学校

建学の精神「変革者たれ」

自らを変革し、地域を変革し、社会を変革する「変革者たれ」。この言葉をこの学校の建学の精神を表す言葉として、ここに刻もう。そして、私たちが変わるために、社会が変わるために、大切にすべき価値観や考え、変革のための理念は何か。それは、「自立」、「協働」、「創造」である。



特色ある4つの学び

1. 実践力をみがく「未来創造学」
2. 世界に飛び出す学び
3. 深い学び・高い学力
4. 未来の主人公となる学び

目指す学校像

ふたば未来学園は

生徒が主体的に動く学校を目指す。 答えのみつからないような難しい課題にぶつかっても、ひるまずに挑戦する生徒を支え、応援する。失敗や挫折が成長の糧となる。

現実社会の中で、コミュニティや世界と共に学ぶ学校を目指す。 行動することで何かが変わる。

夢を開く窓がたくさんある学校を目指す。 本物と出会い、本物から学び、新しい生き方を創造していく、一人一人の「未来」につながる学園だ。

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 人材育成要件・ルーブリック(6 April 2021 Ver.)

協働

自立

学力概念	No	資質・能力・態度(まとめと)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
知識 Knowledge "What we know"	A	 社会的課題に関する知識・理解 一般常識や基礎学力をつけながら、世界・社会の状況の変化やその課題を理解するための知識を身に着ける。	地域や社会の成り立ちについての基礎的な知識を得る。	地域の復興に向けた課題や、目の前の課題についての基礎的な知識を得る。	環境・エネルギー問題など持続可能な社会実現に向けた課題や、世界の状況・課題について基礎的な知識を得る。	社会の課題について、習得した知識を深掘し、周辺情報や関連情報を集め理解する。	社会の課題について、目の前の課題と関係する知識を俯瞰してつなげ、人に説明できるレベルまで理解する。
	B	 英語活用力 英語を使つてのコミュニケーションができるようになる。	英語でコミュニケーションをとろうとする関心・意欲・態度を持ち、自分のことについて英語で簡単に伝えられる。	自分の興味関心のあることや、地域について英語で説明できる。	地域や研究内容について、原稿を元に英語でスピーチし、簡単な質疑応答ができる。 (OEFR A2-L1/L2)	地域や研究内容について、即興で英語でスピーチし、意見交換ができる。 (OEFR B1-L1/L2)	地域や研究内容について、ストーリー、データ、事例などを交えながら英語で説得力を持って主張し、議論できる。 (OEFR B2-L1/L2)
技能(スキル・コンピテンシー) Skills "How we use what we know"	C	 思考力 物事を論理的に考え、批判的思考で掘り下げ、スケールの大きな考え方ができる。	与えられた情報を整理できる。	目の前にある課題やその解決のための内容を論理的に掘り下げて考えることができる。	メディアを活用して情報を集め、情報を分析・評価・活用しながら課題を発見したり設定できる。	現実と理想の差を踏まえながら、広い視野・大きなスケールで既知の事実について批判的に考え、本質を追求することができる。	未知のことについても粘り強く考え、自分の考えや常識にとらわれず、本質的・根源的な問いを立て、多面的に考えることができる。
	K	 創造力 自分なりの見方や好奇心を持って試行錯誤し、社会に新たな独創的価値を創造することができる。	アイデアを生み出そうと、自分なりの見方や考え方に基づいた観察や思考を行うことができる。	好奇心をもって、他者との違いを楽しみながら自分なりのアイデアを生み出そうと行動できる。	目の前の課題に対して、これまで得た知識や技術を関連づけながら、自分なりのアイデアを実現しようと行動できる。	行動する中での出会いから得られた知見や発想を取り入れ、自分なりのアイデアを社会的に価値あるものに高めることができる。	試行錯誤(創造のスパイラル)を繰り返しながら、価値を更に発展させ、社会に新たな独創的価値を創造することができる。
	D	 表現・発信力 どのような場でも臆することなく自分の考えを発信でき、他者の共感を引き出せる。	自分の意見や考えを、集団の前で話すことができる。	突然指名されたときでも慌せず、集団の前で、自分の意見や考えを相手に伝えるように表現することができる。	データや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	多様な人々へ、相手の立場や背景を考えたり、テクノロジーを活用したりしながら、分かりやすく伝えることができる。	多様な人々へ、熱意とストーリーを持って腑に落ちる形で説得力ある発信を行い、共感を得ることができる。
	E	 他者との協働力 異文化・異なる感覚の人・異年齢等を超え、仲間と協力・協働しながら互いに高めあえる行動が取れる。異文化・異なる感覚の人・異年齢等を超え、仲間と協力・協働する。	集団や他者の中で、決められたことや指示されたことに一人で行き届くことができる。	集団や他者の中で、自分の役割を見つけ、個性を活かしながら行動でき、身近なメンバーの支援もできる。	集団や他者の中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を作ることができる。	分断・対立、文化・環境を越えて、社会を革新する行動にうつし、互いに高めあう同志としての関係をつくれる。	
	F	 マネジメント力 自分や組織での取り組みを計画性を持って進めることができる。	指示を受けながら作業を実施できる。	指示を持たず、解決に向けた適切な目標を設定し、自発的かつ責任を持って自分の作業を実施することができる。	全体にとって必要な作業を見出し、自分の作業に優先順位をつけて、複数の課題に同時に対処することができる。	作業の繋がりを、全体スケジュールを意識し、チームやメンバーで作業を適切に役割分担して目標に向けた行動ができる。	今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで確認しながら進めることができる。
	G	 前向き・チャレンジ 自分を意味ある存在として考え自信を持ち、課題解決のために自分の役割を見つけ、全力で取り組み、決してあきらめず遂行できる。	自分を意味ある存在として考え、物事をポジティブに捉えることができる。	自分に自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして好意的に捉えて、主体的に取り組める。	集団や他者の中で、自分の役割を見つめることができ、すぐに解決方法が分からなくても考え続けることができる。	困難にぶつかっても自分の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。	困難にぶつかっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗してもその失敗を糧とできる。
人格(キャラクター・センス) Character "How we engage in the world"	H	 寛容さ 異文化や考えの違う他者を受け入れ、思いやるあたたかさをもち、協調して共に高めようとする事ができる。	集団や他者の中で、他者を気づかえる。	集団や他者の中で、相手の立場や考えを想像し、共感できる。	集団や他者に対して、思いやりをもって行動し、周囲の幸せを考えることができる。	考えの違う他者に対して、ユーモアを持って接するなど、他者との違いを楽しめる。社会や環境の変化を前向きに捉えられる。	考えの違う他者の意見や存在を、自分や社会をより良くしていくための重要なものと考えて受け入れられる。
	I	 能動的市民性 社会を支える当事者としての意識を持ち、地域や国内外の未来を真剣に考えることができる。	所属する集団の一員としての自覚を持つ。	社会の一員としての自覚を持ち、社会がより良くなるために目を向けようとする。	社会をより良くしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がより良くなるための考えを持つことができる。	社会に貢献しようとする意欲と自分の価値観を持ち、自ら社会に影響を及ぼそうとする。	社会・未来を良くしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に真剣に語る事ができる。
自らを振り返り変えていく力(メタ認知) Metacognition "How we reflect and learn"	J	 自分を変える力 自分の言動や行動を俯瞰して見つめ直し、常に改善しようとする意識を持ち、次の行動や、将来の夢に繋げることができる。	自分を向上させるために、自分自身で目標を立てることができる。	自分を向上させるために、自分の目標と現実の差を見つめることができる。	自分の目標に近づき方策を考え自ら行動することができる。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直して反省しながら、学び続け、次の行動につなげて取り組むことができる。	社会の中での自分の役割や意義を俯瞰して考え、自分の目標や将来の夢と関連づけて大局的に行動できる。



広島県立
広島叡智学園
中学校・高等学校
学校案内

MISSION

ミッション

学びを通じて平和な社会づくりを実現し続ける存在となることを目指す

TO BE A GLOBAL LEADER IN BUILDING PEACE WITH THE POWER OF "LEARNING".

VISION

ヴィジョン

社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても
地域や世界の「よりよい未来」を創造できるリーダーを育成する

TO FOSTER LEADERS WHO CREATE IN THEIR COMMUNITY "A BETTER FUTURE"
FOR PEACE AND SUSTAINABLE DEVELOPMENT.

「学びの変革」の目指すべきモデルとなる

TO BE AN EXCELLENT MODEL IN "LEARNING INNOVATION".



広島県立

広島叡智学園

中学校・高等学校

学校案内

VALUES

バリュー

「グローバルな視野」と「地域に根ざした心」の双方を大切にし、
主体的に学び続ける「ラーニングコミュニティ」を形成する

TO BE A LEARNING COMMUNITY WHOSE GLOBAL VISION IS ROOTED IN LOCAL CONTEXT.

重点的に育成する力

様々な場面で活用できる

知識・技能の
深い理解

新しい価値を生み出す

創造的・批判的
思考力

異なる文化・価値観を
持つ人々と

協働する力

目標に向かって

やり抜く力・自信

日本語でも英語でも
議論・協働できる

高い語学力

これらの特色を全て
備えた公立学校は全国初!

5つの特色

広島観智学園は

「世界中のどこにおいても、地域や世界の“よりよい未来”を創造できるリーダー」
を育成する、全寮制の県立中高一貫教育校です。

広島観智学園には「未来に向かう学び」と「世界へと続く扉」があります。

1.

国際バカロレア認定校 (MYP及びDP)

2.

実社会の課題解決に挑戦する
国際協働型プロジェクト学習

3.

少人数授業やオンライン交流
などによる英語力の育成

4.

学年を超えた仲間や留学生との
共同生活を行う全寮制での学習・生活

5.

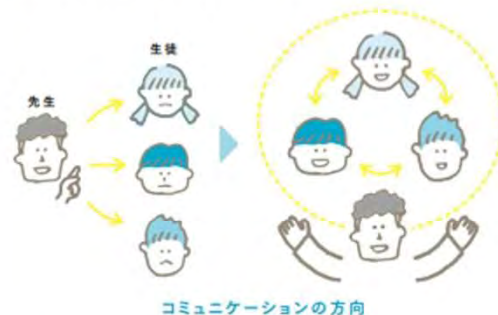
外国人留学生の受入など、
多様性あふれる学習環境

生徒の意見と
自己決定を尊重し

生徒の個性を最大限に

1 一人一人の 生徒が主役

ここでは、「教師が教育を提供する側、生徒は教育を受ける側」
ではありません。「教師も生徒も、一緒に教育を創る側」。生徒
一人一人の「こんな学校にしたい」「こんな授業にしたい」という
思いが、この新しい学校を創ります。



(学びの促進者)
先生はファシリテーター! 授業の主役は生徒です。



一人一人の「知りたい」
という思いから自発的に研究

一人1台のICT端末を用いて、いつでもどこでも学びを深めます。

2 失敗こそ最高の学び

「正解」か「不正解」かしかない「テスト」ではなく、「成功」も「失敗」もある「プロジェクト」へ。「不正解」は人が決めます。しかし、「失敗」は自分自身が決めるもの。大切な「成長のきっかけ」である「失敗」を、子供たちから取り上げる「過保護な教育」は、この学校では行いません。



学びは生徒のもの!

1. 調査の目的
2. 神戸市の教育課題と中高一貫校設立に向けての課題
3. 神戸市の教育課題を解決するために必要なこと
4. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？
5. 公立中高一貫校の具体的なコンセプト案
6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと
7. 開校に向けてのロードマップと設置準備計画

6.公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと

①立ち上げ理由を明確にする。 → 時代背景、市民の要望

※東京都では市民のアンケート調査で公立中高一貫校への期待が大きかった。

例えば、

- ・神戸市や兵庫県には中高一貫教育校が他の都道府県と比べて少ない。
- ・政令指定都市の中で中高一貫校を開校していない残りわずかな都市になってしまった。
- ・これからの日本において有益な人材を育成する手段の一つとして、6年間を通じての中高一貫教育を行うことは不可欠である。
- ・一般の中学校、高等学校とは異なり、教養教育を行い、学ぶ姿勢や高い志を持った生徒を神戸市として教育委員会と学校との協力で6年間に渡り行うことで、関西圏屈指の人材を育成することができる。

政令指定都市が、先進的な教育を実践する為の公立中高一貫校の設置状況

政令指定都市一覧（20市）

No.	都道府県	都市名	人口	面積	人口密度	公立中高一貫校の設置状況
1	神奈川県	横浜市	3,775,352	437.78	8,623.86	横浜市立南高等学校附属中学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校
2	大阪府	大阪市	2,750,835	225.33	12,208.03	咲くやこの花中学校、
3	愛知県	名古屋市	2,325,916	326.5	7,123.79	名古屋大学教育学部附属中学校
4	北海道	札幌市	1,973,329	1,121.26	1,759.92	札幌市立札幌開成中等教育学校
5	福岡県	福岡市	1,619,585	343.46	4,715.50	※なし
6	神奈川県	川崎市	1,540,340	142.96	10,774.62	川崎高等学校附属中学校
7	兵庫県	神戸市	1,517,073	557.03	2,723.50	※なし
8	京都府	京都市	1,453,956	827.83	1,756.35	京都市立西京高等学校附属中学校、京都府立洛北高等学校附属中学校
9	埼玉県	さいたま市	1,332,196	217.43	6,127.01	さいたま市立浦和中学校
10	広島県	広島市	1,196,222	906.69	1,319.33	広島中等教育学校
11	宮城県	仙台市	1,097,237	786.35	1,395.35	仙台青陵中等教育学校、宮城県立仙台二華中学校
12	千葉県	千葉市	978,021	271.76	3,598.84	千葉県立千葉中学校
13	福岡県	北九州市	931,551	491.71	1,894.51	福岡県立門司学園中学校
14	大阪府	堺市	821,598	149.83	5,483.53	※なし
15	静岡県	浜松市	786,787	1,558.06	504.98	静岡県立浜松西高等学校中等部、浜松市立佐久間中学校、浜松市立水窪中学校
16	新潟県	新潟市	784,251	726.27	1,079.83	高志中等教育学校
17	熊本県	熊本市	738,185	390.32	1,891.23	※なし
18	神奈川県	相模原市	725,924	328.91	2,207.06	相模原中等教育学校
19	岡山県	岡山市	721,922	789.95	913.88	岡山県立岡山操山中学校、岡山県立岡山操山中学校
20	静岡県	静岡市	688,625	1,411.83	487.75	静岡県立清水南高等学校中等部

都立高校に関する 都民意識調査（概要）平成19年4月

第1章 調査の目的及び調査内容

1 調査の目的

当該「都立高校に関する都民意識調査」は、東京都教育委員会が現在推進している「都立高校改革」に対する都民の評価及び都民の都立高校に対するニーズ等を把握し、今後の都立高校のあり方について検討する際、参考にすることを目的として、調査を実施した。

2 調査方法

① 調査対象者

1) 調査1

東京都に居住する19歳以上60歳以下の人	2,000人
東京都に居住する中学校3年生の保護者	400人
教育モニター	100人
東京都に居住する高校生	500人

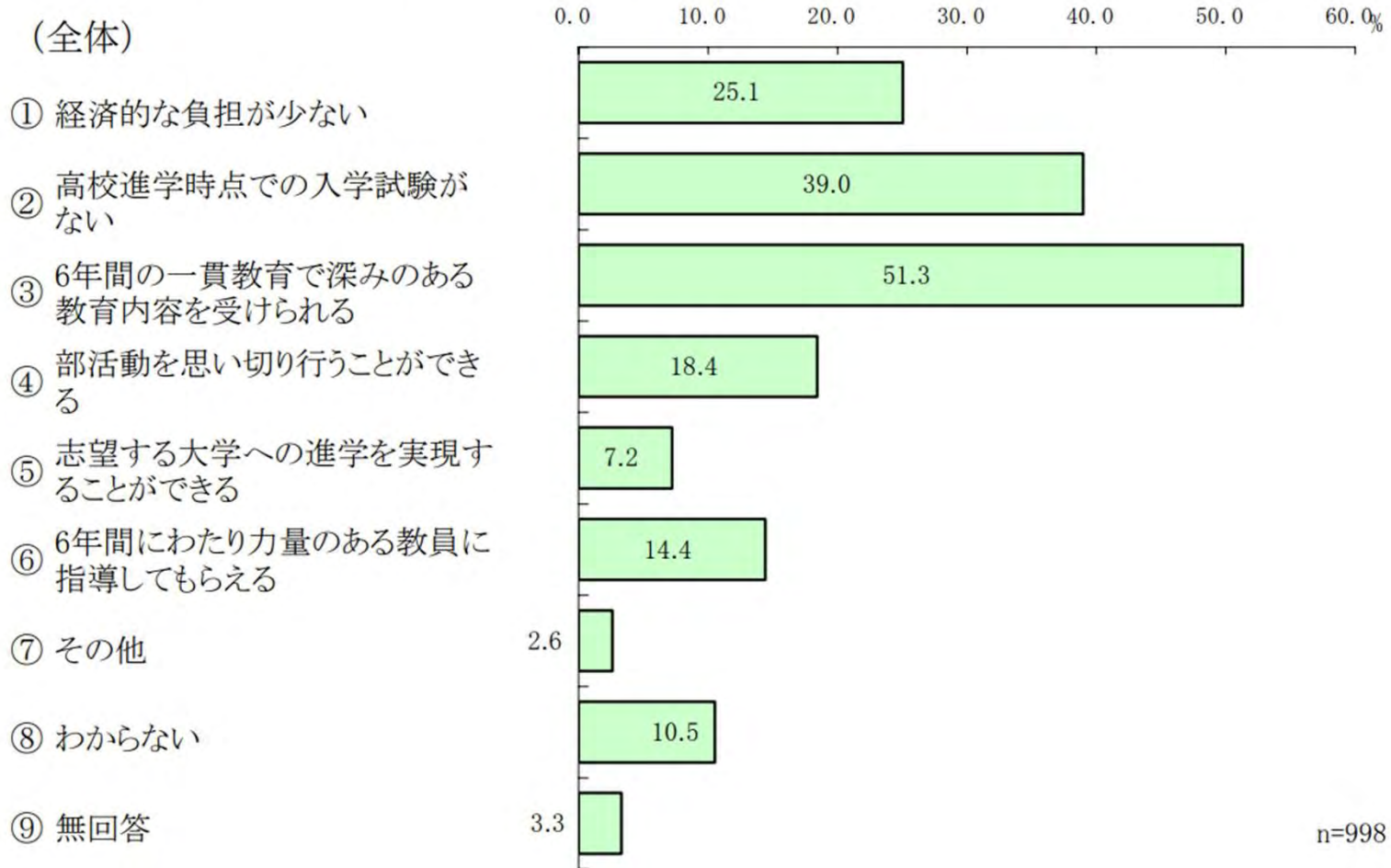
2) 調査2

東京都内で営業する企業	500社
-------------	------

都立高校に関する 都民意識調査（概要）平成19年4月

6-15 中高一貫教育校について

問 38 公立中高一貫教育校（*16）の魅力は何ですか？（2つまで○）

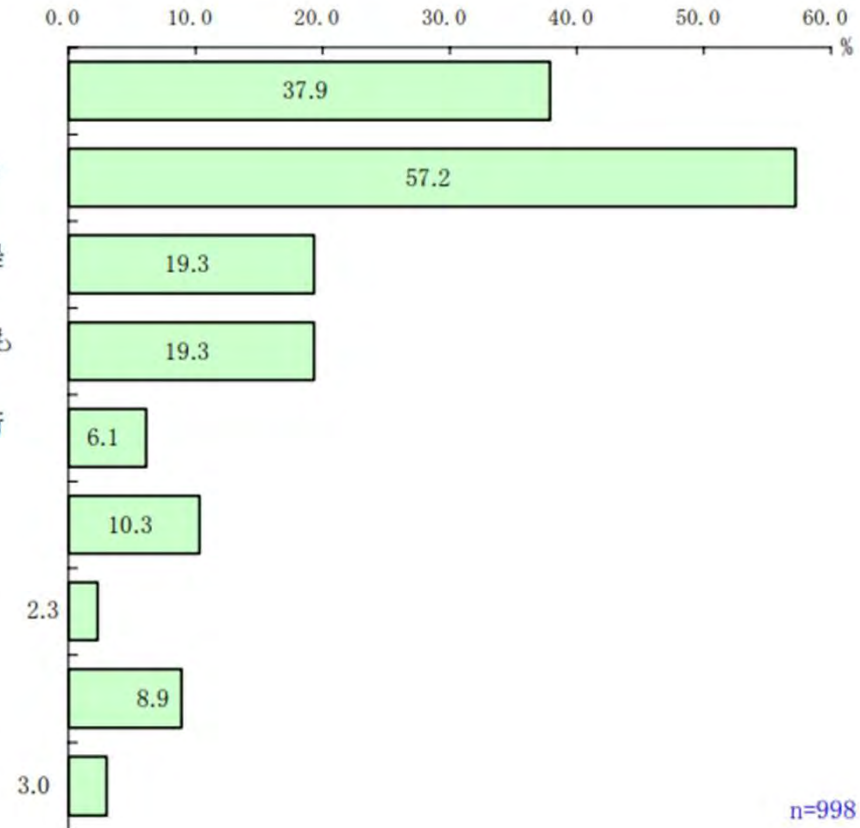


都立高校に関する 都民意識調査 (概要) 平成19年4月

問 39 公立中高一貫教育校に特に重視して欲しい教育内容は何ですか？ (2つまで○)

(全体)

- ① 6年間の異年齢集団による活動をとおした、生徒の社会性や人間性を育てる教育活動の実践
- ② 6年間を見通した計画的な学習指導、進路指導、生活指導によるゆとりある安定的な学校生活
- ③ 在学中に民間企業や研究機関の実践や大学、大学院等の教育にふれさせる機会を提供することで、中高一貫教育校卒業後も目的意識をもって学び続けられる人材の育成
- ④ コミュニケーション能力を有し、わが国と世界の文化・伝統を理解し、尊重できる姿勢をもつ世界で活躍できる人材の育成
- ⑤ 自然科学の理解や科学技術に対する基礎的な力を身に付け、将来わが国の科学技術水準の向上に寄与しうる人材の育成
- ⑥ 今後の方向性を示しうる人材の育成
- ⑦ その他
- ⑧ わからない
- ⑨ 無回答

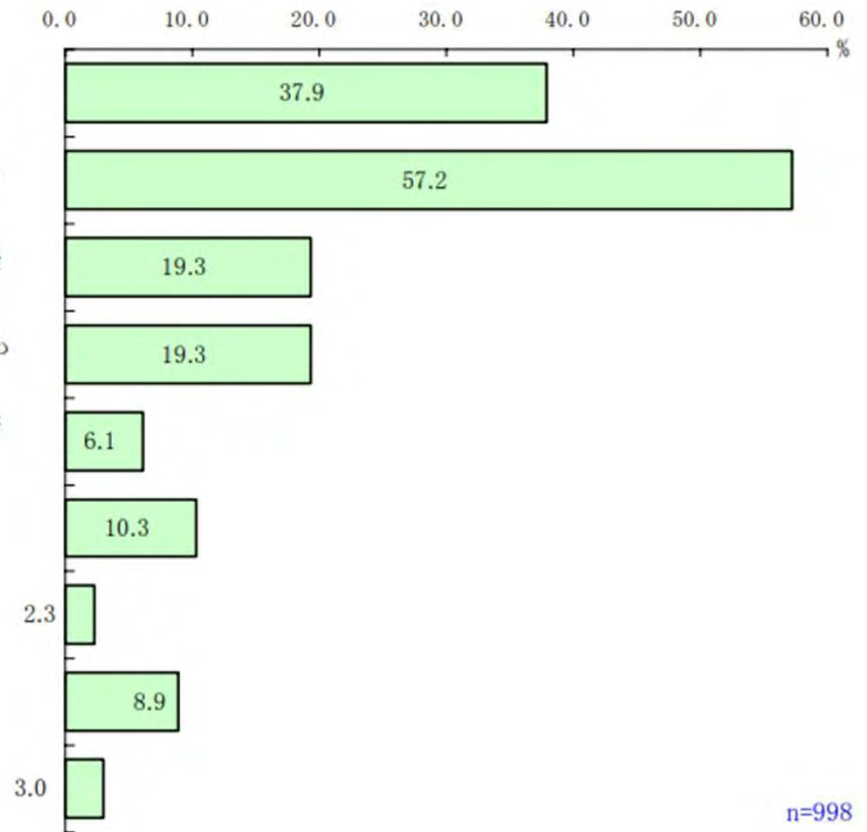


都立高校に関する 都民意識調査（概要）平成19年4月

問 39 公立中高一貫教育校に特に重視して欲しい教育内容は何ですか？（2つまで○）

（全体）

- ① 6年間の異年齢集団による活動をとおした、生徒の社会性や人間性を育てる教育活動の実践
- ② 6年間を見通した計画的な学習指導、進路指導、生活指導によるゆとりある安定的な学校生活
- ③ 在学中に民間企業や研究機関の実践や大学、大学院等の教育にふれさせる機会を提供することで、中高一貫教育校卒業後も目的意識をもって学び続けられる人材の育成
- ④ コミュニケーション能力を有し、わが国と世界の文化・伝統を理解し、尊重できる姿勢をもつ世界で活躍できる人材の育成
- ⑤ 自然科学の理解や科学技術に対する基礎的な力を身に付け、将来わが国の科学技術水準の向上に寄与しうる人材の育成
- ⑥ 今後の方向性を示しうる人材の育成
- ⑦ その他
- ⑧ わからない
- ⑨ 無回答



6.公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと

②神戸市に中高一貫教育校を作ることによって
どれだけのメリットがあるか？

- 神戸市の教育課題の解決
- 市民のメリット
- 経済的効果
- 神戸市の未来の発展

6.公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと

③開校のねらいのイメージ化

→特に「地域人材育成」のイメージを関係者で共有しておく。

卒業後の進路や、地域で卒業生が活躍する具体的なイメージ(例えば、行政職員、教員、クリエイター、起業家...)を持つことで、さらに積極的に地元の大学等との高大連携を探ることなど様々な方策が考えられる。

6.公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと

④内部の協力体制

内部(行政、教育委員会、設置高校の学校関係者など)の協力体制が構築できるかが、このプロジェクトの成否を握っている。特に縦割り行政を横につなぐ担当者の努力がたいへん重要である。そのためのポイントとして次の2点が考えられる。

① (内部との・・・特に教育委員会の部、課、係、設置予定高校)人間関係をつくる。

②内部の関係者に「中高一貫基本計画」の理解を深めてもらうために、ことあるごとに関係者に資料冊子を配付し、説明する。

1. 調査の目的
2. 神戸市の教育課題と中高一貫校設立に向けての課題
3. 神戸市の教育課題を解決するために必要なこと
4. 教育先進都市・神戸としてふさわしい教育とは？
5. 公立中高一貫校の具体的なコンセプト案
6. 公立中高一貫教育校を立ち上げるために考える大事なこと
7. 開校に向けてのロードマップと設置準備計画

7.開校に向けてのロードマップと設置準備計画

第7 開校までの整備スケジュール

	全体スケジュール	組織体制	入学者選抜	教育内容	施設整備	広報・PR
平成26年度	基本方針策定	開設準備委員会	入学者選抜方法検討・決定	教育内容基本方針検討		
	基本計画策定					
平成27年度	実施に向けた準備		入学者選抜実施要項策定	教育内容検討(一般教科・選択科目・学校設定科目シラバス作成)	施設改修の検討・設計	小学校ほか関係諸機関説明・学校説明会・見学会
平成28年度	開校準備	開校準備室	適性検査作成			改修工事
			適性検査実施			
平成29年4月開校						

横浜サイエンスフロンティアの場合→3年間の準備期間

開校に至るまでの具体的な取り組み

●学校概要を確定させる

- ・学校の教育目標・目指す教育・目指す生徒像・目指す学校像を決める
- ・いずれかの学校を改編するのか、或いは土地を取得し建物を新規に作るのか
- ・設置するための予算
- ・校舎・校庭・施設設備
- ・学校の規模(生徒数とクラス数など)
- ・開設準備に必要な教員や指導主事等の配置
- ・1年目から6年目までの旧職員人数とメンバー
- ・校名・校歌・校章・制服の有無(制服の場合にはその選定)
- ・カリキュラム編成(これがとても重要です)

開校に至るまでの具体的な取り組み

開設準備

- ①二～三年間の開設準備スケジュールを作成する。
- ②開設準備室の仕事内容を綿密に決める。
- ③広報計画。受験生・保護者へのお知らせや説明会の準備。
- ④適性検査選抜計画。適性検査問題の策定とサンプル問題の準備。
- ⑤施設改修計画立案。
- ⑥職員配置立案と教員研修。
- ⑦教育内容の具体的な取り組み。

開校に至るまでの具体的な取り組み

教育委員会との意見のやり取りと連携①

- ①教養教育を何にするか(独自科目の設定)。そのために、特別推薦枠を設けるかどうかで外部有識者を含めた協議会を設置。
- ②適性問題の各学校の教養教育と適合した問題かどうか。採点基準をどのように決めるか。市民に適切な説明ができないものは基本的には認められない。
- ③進学実績をどこまで優先するか。
- ④神戸市外からの生徒を受け入れるか？
- ⑤各市町村から所属小学校や中学校への学校設置の周知依頼

開校に至るまでの具体的な取り組み

教育委員会との意見のやり取りと連携②

- ⑥中学校教員の中高一貫教育校への配置の困難さ。
- ⑦中学校の授業時数と高等学校の単位とのすり合わせ。
- ⑧中高一貫教育校の教育課程の特例による前倒しの内容の選択など。
- ⑨繰り上げ合格者の決め方。
- ⑩併設型か中等教育学校かの選択

開校に至るまでの具体的な取り組み

議員・卒業生との対応

- ①制服・校名・校訓・校歌・校章をどのように決めるか。
- ②議員の中には、その前身の学校の卒業生がいる。
- ③卒業生が高校を中高一貫教育校に変えることに反対の人がいる。

開校に至るまでの具体的な取り組み

⑤施策のPR戦略

○市民の理解を得るために、説明会を度々開催する。また、小学生の保護者や小学校の教員を対象とした説明会を開催する。

○行政や公立小中高等学校の関係者(管理職・教職員・PTA)に理解を深めてもらうために、積極的にPRする。

広報活動と地域住民の理解などです。

- ・地域住民に対する説明会(目的や通学路や住民の不安解消など)
- ・地域住民に対する建設工事期間等の説明会
- ・各小学校や地域の人たちへの学校説明会
- ・担当教育委員会からの小学校への周知
- ・既設校を改編する場合には、在籍性と在校生保護者に対する説明会
- ・既設校を改編する場合には、卒業生に対する説明会

このような理解を得て地域住民や卒業生から期待され応援していただくために、可能な限り具体的にまた丁寧に説明することが大切であると思います。